今成元昭仏教文学論纂

全5巻

推薦＝小島孝之・末木文美士
編集＝日下力・小峯和明・谷山俊英

主体をかけた文学研究の集大成なる。
血の通った学問は、あるべき
文学研究の方向性を示す。

IMANARI GENSYO

法藏館

刊行の辞

学会に刺激を与え続けてきた今成元昭の著作集が、『仏教文学論纂』の名のもと、ここに公刊される。その仕事は、常に今の常識を疑い、往時の常識をよみがえらせようとする営為であったと言えようか。まず、日蓮が『平家物語』を享受していたという通念をくつがえし、非享受説を主張、平家滅亡に関する言説が広範に潜行していた実態を明らかにした。

次に、『方丈記』が随筆という近代のジャンル意識に侵されたことで、本来の宗教文学としての性格が見失われてしまったと指摘、仏教経典の知識に貧困な研究者たちに警鐘を鳴らした。それは、『更級日記』の論にも及ぶ。

深い文学的洞察力は、『平家物語』の生命（いのち）に愛を見出し、説話文学の本質は説示意識にあると捉えた。そしてその意味で、物語的志向を持つ『今昔物語集』は、不成立の説話文学であったと言い切る。

晩年には、日蓮の教えが人を屈服させて布教する折伏説で染め上げられている現実に異を唱え、相手を受け入れて導く摂受（しょうじゅ）説こそ日蓮の真の教えであったと論じ、法華経を信仰した宮沢賢治も折伏説を拒絶していたことまで解き明かした。

日蓮にこだわり続けた姿勢は、言うまでもなく自身が日蓮宗の僧侶であるからで、しかも、軍人としての戦争体験を通じて「自己を徹底的に破壊された経験をもつ私」と自ら言う（第四巻・第Ⅲ部・第七章）その言葉に素直に向き合ってみれば、研究上の権威的な通説を疑い、折伏を主唱する高圧的な日蓮像への懐疑を抱くに至る道は、必然的なものであったように思われる。研究人生の締めくくりとして、仏徒日蓮の真実の姿を世に示し得たことに万感の敬意を表しつつ、戦後七十年の節目の年に刊行される本著作集が、一人でも多くの読者に恵まれるよう、切に願う。（文責・日下　力）

推薦の辞

豊饒な仏教文学の沃野を拓く

東京大学・成城大学名誉教授　小島　孝之

仏教文学の分野で常に刺激に満ちた開拓の鋤を振るってきた今成元昭氏の研究が集大成されるという。古代の説話文学から宮沢賢治に至る日本の仏教文学の広範な沃野を切り拓いた今成氏の文学論の全貌が姿を現そうとしている。日本文学の研究を志す者には必読の研究であるが、容易に手に入るという状況ではなかっただけに、氏の研究が一堂に会する形で我々の目の前に現れることは、この上ない喜びである。

今成氏の研究の根底には常に日蓮との関わりがモチーフとして流れている。最初の大著であった平家物語の研究にもすでにそれは明らかだったが、私にとってとりわけ重要な示唆を受けたのは方丈記の理解であった。中世の文学作品を読み解くためには、宗教文学としての性格の全き理解の上に立たなければ本質を見失った迷路に迷い込む虞れがあることを教えられた。以後の私自身の自戒の源となった。再びその刺激を受けられる喜びに期待が膨らむ。

学際的な仏教研究に向けて

国際日本文化研究センター教授　末木　文美士

私が仏教の研究を始めた頃、それはもう四〇年も昔だが、仏教学、歴史学、文学など、それぞれの分野がお互いに没交渉で、それが研究の行き詰まりを招いていた。その反省から、近年急速に学際的な協力が進み、中世仏教研究が大きく書き換えられるようになった。そうなってから振り返ると、私たちの先生世代の研究者は、ずいぶん大きなスケールで、一個人で分野を超えた成果を挙げていて、驚かされる。

今成元昭氏はその代表格で、中世文学の大家であるが、私たち仏教学者にとっては、日蓮遺文の専門家として知られていた。特に、日蓮というと勇ましい折伏主義者ということが常識になっていた中で、その本質は相手を受けいれながら平和に教えを説く摂受にあるという説を提示したことは、仏教学界に強い衝撃を与えた。今回、その幅広いお仕事が集大成され、一望できるようになることは、今後の学際的な仏教研究の進展にとって、必ずや大きな刺激を与えてくれるに違いない。

◆巻構成◆

第一巻『仏教文学総論』

仏教と文学――序論こぼれ話
日蓮――末法応現の仏の使徒
日蓮――新しき救世主
香春神示験話覚書
高僧伝形成の一事情――日蓮伝の場合
妙典は船乗りか
平家物語鑑賞〈巻十一～灌頂巻〉

第一部　仏教文学の構想
仏教文学の構想——『方丈記』論によせて
仏教文学研究のあゆみ
仏教史と文学史
〈講演〉仏教と文学
〈講演〉歴史が文学になるとき

第Ⅱ部　仏教文学の担い手と場
「聖」・「聖人」・「上人」の称について
——古代の仏教説話から
寺院と文学
僧侶の文学活動
日本語の中の宗教性——仏との親しい交わり

第Ⅲ部　法語の世界
法然・親鸞の世界
〈講演〉親鸞と日蓮
〈講演〉日蓮の法語
中世仏教説話集と法語
中世仏教草創期の法語
——法然・道元・日蓮を通して

第Ⅳ部　仏教の古典文学
蓮胤方丈記の論
論争へのいざない——学界時評子へ
更級日記の構造と仏教
徒然草の源泉——仏典
徒然草の末段
解説——小峯和明

第二巻『日蓮・信仰と文学』

第Ⅰ部　言語表現の力
日蓮の人と文学
日蓮文学研究概史——明治大正期
日蓮書簡の文学性
〈講演〉御遺文にみる日蓮の人間像
日蓮消息
日蓮聖人の書簡について
——解釈上の三の問題
日蓮所引の経文をめぐって
——「心の師となるとも、心を師とせざれ」の周辺
日蓮遺文中の維摩経典に関する基礎的覚え書

第Ⅱ部　日蓮折伏説の否定
日蓮伝の一問題——佐渡から身延へ
日蓮——その思考と行動の軌跡
日蓮遺文——その読み方をめぐって
〈講演〉不軽菩薩と日蓮聖人

第Ⅲ部　在野の心
日蓮と文覚
——中世動乱期の意思的行動的人間像
祖師日蓮観——文学からのアプローチ
御遺文に登場する武人をめぐって
南条七郎次郎時光宛て書簡
手紙にみる日蓮
日蓮書簡の魅力——子を失った母へ
謡曲・浄瑠璃にみる聖人像
聖人の苦難と外護者——佐渡・身延山
日蓮と飲酒
東国と日蓮
解説——日下　力

第三巻『説話と仏教』

第Ⅰ部　説話論——説示の文学
説話文学試論
説示の文学である説話
説話と説話文学
説話集の個性——編者の創意

第Ⅱ部　往生論——浄土への希求
末世からの超脱——摂関制下の仏教
日本文学における死後の世界
——古代、中世の
日本文学に見る浄土
往生について
往生伝の世界
説話と軍記——往生話をめぐって
冥界見聞録——地獄編
熊野——霊界の入口

第Ⅲ部　古代説話の世界
——日本霊異記から今昔物語集へ
日本霊異記の世界
霊異記——説話集の原点として
今昔物語集の不成立をめぐって
今昔物語集——古代説話の集大成
今昔物語集の兵説話をめぐって
源信の母——今昔物語集
今昔物語集の最澄話について

第Ⅳ部　僧伝の世界
祖師伝の展開——最澄伝
仁忠撰『最澄伝』新考
中世の仏教説話と説話集
宝物集と日蓮遺文
——小泉弘氏説の再検討
中世の文学作品にみる
——「渇仰」は本来仏教語
仏教文学の中の女性
和歌と説話の世界
説話にえがかれた世界——和歌
説話にえがかれた世界——管弦
解説——小峯和明

第四巻『平家物語研究』

第Ⅰ部　文学的自立への水脈
物語文学と軍記物語
平家物語の成立と時代背景
平家物語と平家——その呼称をめぐって
「前平家物語」をめぐって
日蓮の軍記物語享受をめぐって
日蓮周辺の「平家」について
平家物語とその周辺——十三世紀の展望

第Ⅱ部　思想性
平家物語の世界
「今」と「一所」
思想性を中心として「今」と「愛」
平家物語と仏教
平家物語の仏教思想
平家の悪行と難波・瀬尾
——特に覚一本平家物語の構成に関して
平家物語に見る"生"の意味

第Ⅲ部　仏教界との交錯
平家物語と宝物集の周辺
——蘇武談を中心として
平家物語の物語的空間——南都・北嶺
南都北嶺
「恵亮破脳・尊意振剣」の成句をめぐって（一）
「恵亮破脳・尊意振剣」の成句をめぐって（二）
平家物語に流れる法華経のこころ
——動乱の世の法華信仰
日蓮聖人の平家物語受容を通して布教教化のあり方を考える

第Ⅳ部　作品世界の開拓
清盛と後白河法皇——権勢者のドラマ
平重盛——幻の英雄
鬼界島・硫黄島
宮沢賢治
保元物語の疑問——百王の語意をめぐって
足利尊氏——「太平記」
解説——日下　力

第五巻『法華経・宮澤賢治』

第Ⅰ部　法華経の思想と文学
法華経の思想と文学
法華経と文学
法華経信仰の和歌と説話
法華経と日本文学——方便品をめぐって
法華経寿量品の文学
——「常在霊鷲山」をめぐって

第Ⅱ部　法華経の文学史
〈講演〉仏教文学散見
——法華経の視座から
法華と般若
〈講演〉法華経と維摩経
法華経と日本古典文学
——詩歌にみる法華経の教え
法華経と日本古典文学
——散文にみる法華経の教え
法華経と日本古典文学
——説話にみる法華経の教え
法華経と日本古典文学
——不軽菩薩の礼拝行

第Ⅲ部　法華経と文化
法華経と平安朝の文化・文学
法華八講の〈日〉と〈時〉
——古典解読のために
日蓮の法華経理解と文芸
信仰生活と文学——庶民の法華信仰
法華経を詠む蕉門の代表——宝井其角
「諷誦文」生成考

第Ⅳ部　宮沢賢治と法華経
近代日本文学者と仏教思想
〈講演〉宮澤賢治と仏教
宮澤賢治の仏教思想に関する
基礎的な一問題
〈講演〉宮澤賢治編
『摂折御文・僧俗御判』について
摂折御文の位相
著作一覧
解説——小峯和明

今成 元昭（いまなり げんしょう）著者略歴

一九二五年十一月三十日　東京都に生まれる
一九四八年 三月　早稲田大学文学部国文学専攻科卒業
一九四九年 四月　私立東京立正高等学校教諭
一九五一年 三月　早稲田大学文学部大学院（旧制）修了
一九六三年 四月　国士舘大学専任講師
一九六六年 四月　国士舘大学文学部助教授
一九七三年 四月　国士舘大学文学部教授
一九八〇年 四月　立正大学文学部教授
一九八三年十一月　文学博士（早稲田大学）
一九九九年 四月　立正大学名誉教授

この間、立正女子大学短期大学部、早稲田大学、同大学院、国士舘大学、信州大学、武蔵野女子大学などの非常勤講師、ワシントン大学大学院学位審査員を歴任

専門分野
仏教文学・軍記物語・説話文学

役職・委員等
立正大学法華経文化研究所特別所員、立正大学日蓮教学研究所客員所員、立正大学学園常任理事、
日蓮宗勧学院勧学職、日蓮宗権大僧正、新宿区文化財保護審議会会長、新宿区生涯学習財団理事、
中世文学会委員代表、ほか各種学会の会長・委員などを歴任

主要著書・編著書
『平家物語流伝考』（一九七一、風間書房）、『宗教と文学―仏教文学の世界―』（一九七七、秋山書店）、『NHKブックス・仏教文学の世界』（一九七八、日本放送出版協会）、『日蓮のこころ』（一九八二、有斐閣）、『仏教説話大系　第三七巻・日本の古典』（編著・一九八五、鈴木出版）、『暮らしに生きる仏教語』（一九八五、有斐閣）、『おもしろ仏教ゼミナール』（一九八八、山海堂）、『挫折をこえて日蓮』（一九八九、講談社）、『日什大正師伝記』（一九九〇、日蓮宗什師会）、『日蓮聖人全集第七巻・信徒二』（一九九二、春秋社）、『方丈記（付）発心集』（一九九四、旺文社）、『仏教文学講座』全九巻（共編・一九九四～一九九六、勉誠社）、『仏教文学の構想』（編著・一九九六、新典社）、『『方丈記』と仏教思想―付『更級日記』と『法華経』』（二〇〇五、笠間書院）ほか

好評予約受付中！

二〇一五年四月刊行開始！

□ 予価
各巻 一二、〇〇〇円（税別）

□ 体裁
A5判・上製函入り・各巻平均四〇〇頁

□ 刊行予定

第一巻 『仏教文学総論』　二〇一五年四月
ISBN:978-4-8318-3315-0 C3391

第二巻 『日蓮・信仰と文学』　二〇一五年七月
ISBN:978-4-8318-3316-7 C3391

第三巻 『説話と仏教』　二〇一五年七月
ISBN:978-4-8318-3317-4 C3391

第四巻 『平家物語研究』　二〇一五年九月
ISBN:978-4-8318-3318-1 C3391

第五巻 『法華経・宮澤賢治』　二〇一五年九月
ISBN:978-4-8318-3319-8 C3391

巻タイトル・内容および配本順は変更されることがあります。

0150226

申込書

今成元昭仏教文学論纂 全5巻

第1巻〔　　〕冊／第2巻〔　　〕冊／第3巻〔　　〕冊
第4巻〔　　〕冊／第5巻〔　　〕冊
■〔　　〕セット申し込みます

分売も可能です

ご住所 〒

お名前

お電話

(取扱書店印)

法藏館
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-5656 FAX 075-371-0458
Homepage http:www.hozokan.co.jp